

# 小学部だより

2021. 5. 8 No.3

## 気持ちに向いた時の力

7連休明けの木曜日の朝、小学部の教室では久しぶりに二人一緒にラジオ体操、そして朝の会でいつもの元気な笑顔が見られてほっとしました。今回は二人の連休前の様子になりますが頑張っている様子を紹介します。

小学部では「意欲的に」、「自ら進んで」取り組むことができるというのは、私たちが授業等で目指す子どもたちの一つの姿です。やらされているのではない、自分からしたいという気持ちで自分で考えたり、行動を起こしたりという主体的な姿につながっていく。もちろんいつも楽しいことばかりではなく、我慢したり頑張らなければならない場面もたくさんあるわけですが、そのような場面でも気持ちに向いた時の子どもたちの力を改めて感じたこんなことがありました。

### Bさんの話

Bさんは歩行器で廊下や外を歩く学習をしています。でもいつも意欲的に歩く日ばかりではありません。気持ちが入らず、嫌だよと訴えているような時も。そこで教員が、スロープで下る楽しさを味わう中で歩く意欲につながれないかと考え、スロープのまずは坂下り。2、3回は「何事？」という表情をしていたBさんですが、激しい揺れやスピード感の好きなBさんですからそのうち下り終わると笑顔を見せるようになりました。楽しいと思ったようです。そして下った後は坂を上ればまた、下れると分かったようで、積極的に上り坂で足が動くようになりました。平坦な所よりも力のいる上り坂ですが、一歩一歩力強く足を踏みしめ上っていくBさんの姿に改めて「やりたい気持ちってすごいパワーを発揮する」と教えられました。



## A さんの話

見えない子どもたちにとって触るということは、情報を得るための大きな手段です。もちろん、音情報やにおいなども情報を得るための大きな手段の一つではありますが、それらと異なるのは、本人が触ろうという意思を持たなければ触ることはできない、つまり情報を得ることはできないということです。3年生の理科の学習では青虫を育てて幼虫が大きくなっていく様子やサナギ、チョウと姿を変えていく様子を観察する学習があります。でも虫が大の苦手の A さんにとって、青虫を触るなんてとんでもないことでした。私もそうでした。しかし、



担任や理科の教員がふわふわでやわらかいよ、足を動かすのも感じないくらいと優しく励ましてくれ、A さんも少しずつ触ってみようかなという気持ちになり始めました。しばらくは一瞬触ってはキャーを繰り返していましたが、A さんのペースに合わせてゆったり待ってもらった結果、手のひら

に乗せることまでできるようになりました。そして、この日の帰り、自分から「青虫触ってみる」と触ったそうです。あんなに嫌がっていた気持ちをよく乗り越えたと思います。そして人から言われてではなく自分から触ると言う気持ちにまでなったことに感心しました。



## 食育～給食のお手伝い～

重さも調べたよ。



親指でしっかりお豆をかき出したよ。